

市長記者会見記録

日時：2025年10月1日（水）14時00分～14時17分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《等々力緑地再編整備事業について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、まずは幹事社様からよろしくお願いたします。

【毎日（幹事社）】 幹事社、毎日新聞です。よろしくお願いたします。建設費の高騰で再開発施策の見直しが相次いでいます。先月もJR九州が博多駅の再開発を、プロジェクトを、建設費が2倍となったので中止しました。等々力緑地の再編整備計画なんですけど、1,232億円から先日約40億円の削減を発表されました。さらなる削減をこれからも進めるという方針だと思いますけど、逆にこの1,232億円がさらに増えてしまうということはないとお考えでしょうか。

【市長】 これ、非常に長期間にわたってやっていくものですから、そういう意味では、物価のスライドみたいなものというのは、今後も変動はあるかと思いますが、これまでも申し上げてきているように、可能な限り圧縮していくという方針には変わりませんので、その努力は引き続きやっていきたいと思っています。

【毎日（幹事社）】 物価が大幅に上がった場合は、もしかしたら、またさらに上がったっちゃうかもしれない、何とも言えない。

【市長】 それは等々力だけに限らず、あらゆるものが、再開発だとか含めて上がっていますので、どこまで許容できるのかというのは、その案件案件のことについて考えていかなくちゃいけないと思います。

《街頭演説について》

【産経（幹事社）】 産経新聞と申します。市長選前、最後の会見ということで、街頭演説への大声や文書掲示などの抗議活動というのは一部で議論になっているところですよ。横浜市の山中市長が、自身の選挙戦を振り返って、会場にいた聴衆と抗議する人たちの間でトラブルになりそうな場面もあったということを言及して、市民の安全性が保たれない環境で選挙活動を続けていくことは難しいのでルールの変更が必要だと

思うというようなことを定例会見で発言されているんですけども、そういう街頭演説への抗議活動についての市長の意見といたしますか、見解をお願いします。

【市長】 そうですね。ちょっと私、そういう状況に出くわしたことがないので、何ともお答えしづらいんですけども、本当に、そうですね。それをルール化するというのは、どういうふうにやるのかなというのが、規制をかけていくというのは非常に難しい側面あるんじゃないかなと思うんですよね。

ちょっと、すみません。お答えに全くなっていませんが、本当に通常の状態ですっかり話を聞いていただくというのが選挙の趣旨なので、それに沿わないようなやり方というのは、誰にとってもいい選挙にはならないと思うので、主義主張、それぞれを聞いていただけるような平穏な状態が保たれるのが望ましいと思っていますが、ちょっと規制のことについては、かなり表現の自由の話にも抵触する話ですので、なかなか、ちょっと一言では言い切れないなというふうな感覚でおります。答えになってなくてすみません。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例等について》

《特別市について》

【司会】 じゃあ、幹事社様以外で。朝日新聞さん、お願いします。

【朝日】 どうも、朝日新聞でございます。ヘイトスピーチ禁止条例についてお伺いいたします。

条例ができて、その効果と限界について、改めてどのように分析しているかという点と、あと現行、本邦外出身者、外国にルーツのある人を対象にしていますが、今年12月で6年ということで、保護対象を広げるお考えがあればお聞かせください。

あと、今年6月に、法務省に、国に新たな施策を要望しました。どのような施策を念頭に置いているのか教えてください。

あと、ちょっと別件でもう1件ですね。国民民主党が9月25日、地方制度調査会の準備会合を国会内で開いて、特別自治の制度化の検討を進めて、秋の臨時国会で法案提出を目指す方針との報道がありましたと。この動きについて、市長、受け止めを教えてください。

【市長】 まず、人権尊重のまちづくり条例に関して申し上げれば、条例に抵触するような、明らかに抵触するような言動というのが行われなくなってきているということとは明確な成果の一つではないかなと思っています。

一方で、これまでも申し上げてきましたけれども、インターネット上のいわゆるヘイトスピーチというものは件数が増えているという状況は極めて深刻に受け止めてお

りまして、そういったことから、インターネット上の話というのは一自治体にとどまることではありませんので、そういった意味でも法務省、そして総務省に対して、九都県市を代表して6月までに要請活動を行ったところでございます。

報道によりますと、法務省のほうでヘイトスピーチ、インターネット上のヘイトスピーチの実態というものを調査するというようなことも報道されていましたが、そういったところにつながっているのであれば、ぜひ期待したいと思っていますし、自治体によるインターネット規制というのは非常に厳しいものがあるので、国として、しっかり対応していただきたいなどは思っております。

それから、特別市の話で、国民民主党のというお話ございましたけれども、何となく報道ベースでしか、私、知り得てないんですけれども、維新の副首都構想に対抗してというような、そういうような書きぶりがあったので、ちょっと、どういうことなのかというのとは測りかねますが、いろんな方が、この特別市のことについて話題にさせていただいて、議論いただくというのは大変ありがたいと思っています。

ちょっと副首都構想の話は、何でしょうか、首都機能の移転の話を行っているのか、大都市の制度の話を行っているのかというのが、ちょっとよく分からないところがあって、どういう延長線上で、この特別市というのも出てきているのかというのが、ちょっと今の時点ではコメントしづらいなと思っています。

以上です。

【朝日】 すいません。条例の保護対象を外国にルーツのある人以外の対象を広げるお考えとかがあってございますか。

【市長】 いえ、現状はそのような考えは持っておりませんが、私としては、この条例をしっかりと施行していくという、遵守していくということになるんだと思います。適正に運用していくということですね。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 じゃあ、共同通信さん、お願いします。

【共同】 共同通信です。先ほどヘイトの条例の兼ね合いの話の中で、条例に抵触するような言動が行われなくなっているというお話あったと思うんですけれども、これは後段でおっしゃったインターネットではない場所、いわゆる公の場所でのお話をされていますね。

【市長】 そうですね。

【共同】 ありがとうございます。

法務省のほうで実態調査をする方針との報道が、市長も先ほどおっしゃったように

なされていると思うんですけども、先ほど期待したいというお言葉あったと思うんですが、どういったことを期待されたいのか、改めて教えていただけますか。

【市長】 まず、国として、しっかり対応すべきだと主張していますので、そういう意味では、国として、実態がどうなっているのかと、しっかり把握していただくことから、いろんな施策というものが始まるんだろうと思いますから、まずはしっかりと調査をしていただくということに非常に期待を持っているということでございます。

【共同】 そこには、繰り返しになりますけれども、やはり自治体レベルではインターネット上の話というのは、ちょっと対応し切れない部分もあるのでというところがやはりありますか。

【市長】 そうですね。これまでも削除要請とかってしてきておりますけれども、海外のプロバイダーは、なかなか削除要請を受けていただけないという実態もある中で、そういった意味では、国として、どう考えるのかということに、九都県市として依頼、要請しておりますので、そこにしっかりとつなげていただきたいと思います。

【共同】 ありがとうございます。

最後に、この実態調査の件なんですけれども、市側や市長のほうに、何か法務省のほうから話があったというよりは、報道で承知されているということでよろしいですか。

【市長】 はい。少なくとも私自身は報道で知りました。

【共同】 報道で承知された。

【市長】 はい。

【共同】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 神奈川新聞さん、お願いします。

《等々力緑地再編整備事業について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけども。先ほど等々力緑地の物価高騰の話出ましたけれども、改めて、今日から旧市民ミュージアムのほうの工事の着手が本格的に進むというところで、言わずもがななんですけれども、改めて等々力緑地への思い、そのあたりをお伺いしたいんですけども。

【市長】 そうですね。これまでも川崎市民の宝である等々力緑地というのを、より市民に愛され、活用されてということで、緑ですとか、健康だとか、スポーツだとかという、そういったところで、より幅広い層の市民の皆さんに、これまで以上に愛される場所となるように期待したいと思いますし、本当に国内最大級のいわゆる公園のPFI事業という形になりますので、そういったところで、一つのこれからの川崎市

等々力というのはモデルになるのではないかなと思ってまして、そういった意味で、全国に誇れるような、そういった等々力緑地にしていきたいと思っております。

【神奈川】 そういう意味では、ここまでは本当、いろいろ住民の声をたくさん聞いたりとか、市のほうも歩み寄ったりとか、K T Pのほうも歩み寄ったりとか、そういう意味でも、ここまでの過程もやっぱり誇らしいというか、そういうモデルケースになるのかなとも思うんですけども。

【市長】 そうですね。非常にうれしいのは、当初懸念を持たれていた方たちも、これから一緒に公園をつくっていくという形でパートナーになってくださるといような方たちが増えているということは、そのプロセス自体も非常にいいものになったと思っておりますし、本当に本市職員もそうですが、関係者の皆さんの御協力に深く感謝を申し上げたいと思います。

《SHISHAMOの活動終了について》

【神奈川】 ありがとうございます。

それと、先日、御公務でSHISHAMOのコンサートにも、何か、あれはたまたま公務で行かれていたんですか。それとも何か発表があるから行かれていたんですかというのが、まず1点と、改めて、あの発表を受けて、市長としては、どういうふうな考えを持ったのかと、本当、市制100周年のイベントにも大分大きく貢献していただいたと思うんですけども、改めて最後の6月に向けてのコンサートに対しての思いなんかもあれば教えてください。

【市長】 ありがとうございます。私はじめ、本市のSHISHAMOさんと関わってきた、長年にわたって関わってきたメンバー、御招待いただいていたので、そういう意味でお邪魔してきたという形になります。

発表あって、6月13、14の2日間で等々力でコンサートということなので、1回目、2回目、台風とコロナという形で大変悔しい思いをして、今度3度目の正直ということですので、何とか天気にも恵まれて、最高のファイナルを迎えることができたらいいなと、一ファンとしてもそう思いますし、市民文化大使として御活躍いただいている、そのメンバーがファイナルを迎えるというのは非常に残念ですけども、彼女たちが市に貢献してくれた、このことは極めて大きいと思っておりますので、6月に向けて、いろんな準備が相当必要になってくると思うので、地域住民の皆さんも、これまでのコンサートの計画自体から非常に前向きで、好意的に御協力して下さっているということですので、ぜひ来年に向けて、みんなで頑張っていきたいと思っております。

【神奈川】 ちなみに、あの市長が行かれたときに、そういう引退というか、解散するというのは市長は知っていたんですか、前もって。

【市長】 何らかの重大な発表があるということは聞いておりました。それが6月の話なのかというか、どういう、詳しい内容は私は存じ上げません。

【神奈川】 驚いたりしたみたいなの、何か一ファンとして、どういう受け止め。

【市長】 もう正直泣きました。

【神奈川】 本当ですか。

【市長】 本当です。結構、周りの職員も泣いてました。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 時事通信さん、お願いします。

《特別市について》

【時事】 すいません。時事通信社と申します。また特別市の話に戻って恐縮なんですけれども、公約にも特別市の実現というか、それを挙げられていますけれども、いろんな指定都市市長会とかでも要望されていますけれども、市長御自身の考えで、特別市の法制化がいつぐらいまでにできて、いつぐらいまでに特別市になるとか、そういったお考えというのはお持ち。お持ちというのは失礼ですけれども、どうなんでしょうか。そこら辺の見通し。

【市長】 もう一刻も早く地制調に調査審議というものが諮問されて、結果が出て、法制化にという形を望んでおりますけれども、これ、また総理が替わられるということ、総理の諮問という形になりますので、そういう意味では、何とも、自分たちでどうにかできるような話ではないので、新しい総理が決定されて以降、また改めて、しっかりと要請活動につなげて、一刻も早く、そのプロセスに乗るという形で進めるように努力したいと思います。

何となく、いつまでだと言われると、私たちが決められるような話ではないので、一刻も早くというところを働きかけていくということにさせていただきたいと思います。

【時事】 分かりました。すいません。ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載して

います。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当